

幸年期 Café

with

やまなし

薬害被害は繰り返される

私たちは、なぜ起きたのか制度の根幹を知り、その制度に取り組んでいるのか。

PMDA、RMP、副作用報告制度、添付文書電子化、地域連携薬局など。

今回、添付文書情報をいかに薬学的管理に活用しているか、

薬剤師の責務を果たすとはどのようなことか考えていきたいと思えます。

興味関心のある皆様のご参加をお待ちしています。

〈日時〉 令和4年 **2月3日(木)** 19:00～20:30

19:00～19:10 **アザニンとフェブリックの禁忌見落とし、かかりつけ薬剤師と決めていたのに**

宮原富士子 (NPO法人HAP 理事長 薬剤師)

19:10～19:20 **今回の禁忌見落とし、重大な副作用 この事件を医療安全の観点から**

飯島久子 先生 (静岡県立静岡がんセンター RMQC室 参与 薬剤師)

19:20～19:30 **添付文書の活用 陣痛促進剤の問題から**

国民が自身の医療を確認するために

中村由喜 (TAYA研究会 薬剤師)

〈当事者の声に耳を傾ける〉ナビゲーター:中村由喜、宮原富士子

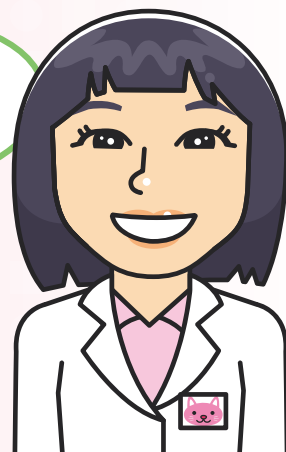
19:30～20:20 **陣痛促進剤で子供を亡くした当事者として、**

どのように考え活動してきたか そして今考えること

全国薬害被害者団体連絡協議会 副代表世話人 勝村久司氏

20:20～20:30 対話の時間: みなさんで思うことを語りませんか

薬の歴史と哲学大事
くすりは正しく
使いたいものです



〈参加費〉 NPO法人HAP会員500円(半年パスポート利用可)、非会員1,000円

日本薬剤師研修センター研修受講シールの発行はありません

〈申込方法〉 HAP研修申込管理システム(HAPのHPに掲載もしくは下記QRコード)よりお申し込みください

WEB開催!!



(NPO法人HAPはZOOMコンサル
ディング会社と提携して安全確保に
努めた形式での開催を考えています)



お申し込みは
こちらから

【共催】 特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women(HAP)・TAYA研究会

[連絡先] Tel : 090-9824-8395 (中村)